

地域ネットワークニュース

電話0299(93)0294

e-mail mail@kamisushakyo.com

http://www.kamisushakyo.com

あけましておめでとうございます

本年も地域ネットワーク勉強会を宜しくお願いいたします



第135回 スクールカウンセラーの役割と実践活動 勉強会

スクールカウンセラー・神栖市子育てカウンセラー 川越 勝先生

平成21年1月16日(金)午後7時より 神栖市保健・福祉会館 会議室B

いじめや不登校、暴力行為などの問題は、子どもたちが内面にストレスや不安を抱え込んでいるために起こしてしまう問題と考えられ、教育機関における相談支援の充実が求められています。

スクールカウンセラーが相談にあたる児童生徒の相談内容は、不登校、いじめ、友人関係、親子関係、学習関係等の他にも、近年は、発達障害、精神疾患、リストカット等の自傷やその他の問題行動など多岐にわたっています。また、児童生徒へのカウンセリングだけではなく、教職員や保護者への指導・助言、カウンセリング等に関する情報収集・提供なども行っており、スクールカウンセラーの役割がますます重要視されています。

そこで、今回の勉強会ではスクールカウンセラーの役割と小・中学校の不登校生徒が通う適応指導教室について、その相談内容や事例を踏まえてお話頂きます。いじめや不登校、子どもの心の悩みなど教育現場における今日的な課題を考える機会です。

多くの方々の参加をお待ちしております。

日本経済新聞 H20.6.30朝刊

学校で子どもの相談に応じるスクールカウンセラーの派遣校が2006年度に1万158校となり、1万校の大台にのった。11年連続の増加で、予算額も06年度に42億円と当初の14倍になった。

文科省によると、子どもの問題行動の数を01年と04年で比べると、スクールカウンセラーを2年以上派遣した学校はいじめが21%減、不登校も15%減など、いずれも全国平均より改善幅が大きかった。同省は今年度(08年度)から新たに、スクールソーシャルワーカーを全国約140地域の小中学校に派遣している。

第134回 感覚統合療法による遊びと発達 勉強会報告

【なめがた地域総合病院 作業療法士 木鉛聡恵先生】

参加者
100名

なめがた地域総合病院にて感覚統合療法を実践されている木鉛先生より、現場での療法場面の映像も交えつつ、感覚統合療法の実際から、子どもの遊びと感覚統合の関連についてお話いただき、子どもの発達の土台にあるのが感覚統合であり“子どもの意欲や自信、協調性などは、感覚統合の最終産物”であることが理解できました。

感覚統合療法においては、口頭で指示するだけでなく、実際に遊びの中で握る・上る・左右の手足を動かすなどの体験を積み、身体でその感覚を掴んでいけるよう促します。

上手にできるようになった運動を使って、子どもはさらに新たな遊びに挑戦するようになり、その中で身体の使い方を覚えたり、友達とのコミュニケーションの仕方を学ぶことにもつながります。

研修会参加者からは「普段の生活場面でも感覚について意識しながら子どもと接したい」「まずは子どもの遊ぶ環境を見直していきたい」などの意見が聞かれました。

